

第73回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連 結 注 記 表 個 別 注 記 表

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

日新商事株式会社

「連結計算書類の連結注記表」及び「計算書類の個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト(<http://www.nissin-shoji.co.jp/>)に掲載することにより株主の皆さまに提供しております。

連結注記表

1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

連結子会社の状況

連結子会社の数

3社

日新レジン株式会社

NSM諏訪ソーラーエナジー合同会社

NISTRAD (M) SDN. BHD.

(2) 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社

1社

日新興産株式会社

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、NISTRAD (M) SDN. BHD. を除いて連結決算日と一致しております。NISTRAD (M) SDN. BHD. の決算日は12月31日であります。連結計算書類の作成に当たっては同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ. たな卸資産の評価基準及び評価方法

メーター商品

総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）

その他の商品

主に先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

- イ. 有形固定資産
(リース資産を除く)
- 定額法、ただし平成19年4月1日以前取得した建物については、旧定額法によっております。
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
- | | |
|-----------|--------|
| 建物及び構築物 | 10～50年 |
| 機械装置及び運搬具 | 3～17年 |
| その他 | 3～10年 |
- ロ. 無形固定資産
(リース資産を除く)
- のれんは、発生日以降、投資効果の発現する期間を個別で見積り、償却期間（5年又は7年）を決定した上で均等償却しております。また、自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③ 重要な引当金の計上基準

- イ. 貸倒引当金
- 債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ロ. 賞与引当金
- 従業員に対し翌連結会計年度に支給する賞与に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。
- ハ. 役員賞与引当金
- 役員賞与の支出に備えて、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。
- ニ. 固定資産撤去費用引当金
- 将来の固定資産の撤去に伴う費用の発生に備えるため、当連結会計年度に負担すべき発生費用見込額を計上しております。
- ホ. 役員退職慰労引当金
- 役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく制度廃止時(平成17年6月末)の支給予定額を計上しております。
なお、「役員退職慰労引当金」は制度適用期間中から在任している役員に対する支給予定額であります。
- ヘ. 商品保証引当金
- 販売した商品の保証に備えるため、過去の実績に基づき、将来の発生見込額を計上しております。

④ その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

イ. 退職給付に係る負債の計上基準

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付債務の算定にあたり退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（５年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

なお、当連結会計年度末では年金資産の額が企業年金制度に係る退職給付債務の額から未認識数理計算上の差異を控除した金額を超過している状態のため、当該超過額を退職給付に係る資産として計上しております。

ロ. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて表示しております。

ハ. 繰延資産の処理方法

社債発行費

支払時に全額費用処理しております。

開業費

支払時に全額費用処理しております。

ニ. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

2. 会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、従来、有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法について、定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用していましたが、当連結会計年度より定額法に変更しております。

この変更は、石油関連事業における新POSシステムの一斉導入及び連結子会社における大規模太陽光発電設備の取得を契機として、当社及び国内連結子会社の保有する有形固定資産の使用実態を検証した結果、当社及び国内連結子会社の主要な資産については、今後も安定的使用が見込まれることから、減価償却方法として定額法を採用することが、当社グループの経済的実態をより適切に反映する合理的な方法であると判断したためであります。

これにより、当連結会計年度の営業損失が99,417千円減少、経常利益が99,417千円増加し、税金等調整前当期純損失は99,417千円減少しております。

3. 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当連結会計年度より適用しております。

4. 表示方法の変更

(連結損益計算書)

前連結会計年度において独立掲記しておりました営業外費用の「固定資産除却損」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。

5. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産

① 担保提供資産

現金及び預金	632,326千円	(632,326千円)
売掛金	1,059,277千円	(ー千円)
流動資産のその他	199千円	(199千円)
建物及び構築物	53,179千円	(ー千円)
土地	354,062千円	(ー千円)
建設仮勘定	745,379千円	(745,379千円)
投資有価証券	1,372,741千円	(ー千円)
関係会社株式	766,910千円	(ー千円)
投資その他の資産のその他	143,286千円	(143,286千円)
計	5,127,364千円	(1,521,192千円)

上記のうち、()内書きはノンリコース債務に対する担保提供資産を示しております。

② 上記に対応する債務

買掛金	1,514,669千円	(ー千円)
短期借入金	1,096,664千円	(ー千円)
長期借入金	2,067,635千円	(850,961千円)
計	4,678,968千円	(850,961千円)

上記のうち、()内書きはノンリコース債務を示しております。

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 5,249,924千円

(3) 保証債務

取引先に対する保証

営業取引に対する保証

MI TRADING&FORWARDING CO. LTD. 6,650千円

6. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

- (1) 当連結会計年度末における発行済株式の種類及び総数
普通株式 7,600,000株
- (2) 当連結会計年度末における自己株式の種類及び株式数
普通株式 873,439株
- (3) 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項
① 配当支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基 準 日	効 力 発 生 日
平成28年5月20日 取締役会	普通株式	60,539	9.00	平成28年3月31日	平成28年6月8日
平成28年11月8日 取締役会	普通株式	60,539	9.00	平成28年9月30日	平成28年12月5日
計		121,078			

- ② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成29年5月19日開催の取締役会決議による剰余金の配当

イ. 配当金の総額	60,539千円
ロ. 配当の原資	利益剰余金
ハ. 1株当たり配当額	9円00銭
ニ. 基準日	平成29年3月31日
ホ. 効力発生日	平成29年6月8日

7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社グループは、各セグメント事業ごとの設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しております。一時的な資金は安全性の高い金融資産で運用し、短期的な運転資金は銀行借入により調達しております。また、当社グループはデリバティブ取引は行わない方針であります。

② 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、すべて1年以内の支払期日であります。また、借入金及び社債は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で18年6ヶ月後であります。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、債権管理規程に従い、営業債権及び長期貸付金について、各事業部門における営業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

当期の連結決算日における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額によって表わされております。

ロ. 市場リスク（金利等の変動リスク）

当社グループは、投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、かつ、取引先企業との関係を勘案して保有状況を見直しております。

また、デリバティブ取引については行わない方針であります。

ハ. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）

当社グループは、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
現金及び預金	2,857,442千円	2,857,442千円	－千円
受取手形及び売掛金	6,848,106	6,848,106	－
投資有価証券	3,754,199	3,754,199	－
関係会社株式	895,016	895,016	－
資 産 計	14,354,765	14,354,765	－
支払手形及び買掛金	2,582,626	2,582,626	－
短期借入金	595,000	595,000	－
1年内償還予定の社債	300,000	300,437	437
長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	2,991,799	2,995,527	3,727
負債 計	6,469,425	6,473,591	4,165
デリバティブ取引	－	－	－

① 資産

イ. 現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

ロ. 受取手形及び売掛金

これらの時価については、当該受取手形及び売掛金がすべて1年以内の回収期日であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

ハ. 投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっており、その他については取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。なお、当連結会計年度末において債券は保有しておりません。

ニ. 関係会社株式

これらの時価については、取引所の価格によっております。

② 負債

イ. 支払手形及び買掛金

これらの時価については、当該支払手形及び買掛金がすべて1年以内の償還期日であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

ロ. 短期借入金

これらの時価については、当該短期借入金がすべて1年以内の償還期日であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

ハ. 1年内償還予定の社債

当社の発行する社債の時価は、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金を、新規に同様の発行を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、当連結会計年度末において市場価格のあるものは該当ありません。

ニ. 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）

これらの時価については、元利金を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

③ デリバティブ取引

該当事項はありません。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区 分	連結貸借対照表計上額
非 上 場 株 式	304,908千円
合 計	304,908

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、ハ. 投資有価証券及びニ. 関係会社株式には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現 金 及 び 預 金	2,857,442	—	—	—
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	6,848,106	—	—	—
投 資 有 価 証 券 そ の 他	—	42,972	—	—
合 計	9,705,549	42,972	—	—

(注4) 1年内償還予定の社債、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）の連結決算日後の返済予定額

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
1年内償還予定の 社債	300,000	—	—	—	—	—
長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金を含む)	886,664	849,321	536,255	55,294	52,794	611,470
合計	1,186,664	849,321	536,255	55,294	52,794	611,470

8. 賃貸等不動産に関する注記

(1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル（土地を含む）を有しております。平成29年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は372,229千円（賃貸収益は売上高、賃貸費用は売上原価及び販売費及び一般管理費に計上）であります。また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は、次のとおりであります。

(2) 賃貸等不動産の時価に関する事項

連結貸借対照表計上額			当連結会計年度末の時価
当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
6,182,525千円	△183,552千円	5,998,972千円	7,165,625千円

(注1) 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

(注2) 当期増減額のうち、主な減少額は減価償却費（105,169千円）及び減損損失（72,731千円）であります。

(注3) 当連結会計年度末の時価は、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算出した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む）であります。

9. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 2,592円48銭 |
| (2) 1株当たり当期純損失 | △10円11銭 |

10. 重要な後発事象に関する注記

(株式取得による竹鶴石油株式会社の子会社化)

当社は、平成29年1月26日開催の取締役会において、竹鶴石油株式会社の株式を取得して子会社化することを決議し、平成29年4月5日に同社の株式を取得いたしました。なお、この株式取得により竹鶴石油株式会社は当社の連結子会社となります。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称、事業の内容、規模

被取得企業の名称	竹鶴石油株式会社
事業の内容	産業用エネルギーを主とした陸上・海上での石油関連の販売・物流規模（29年3月期）
純資産	460,251千円
総資産	707,786千円
売上高	918,655千円
経常利益	14,092千円

(注) 上記の経営成績及び財政状態は、会計監査人の監査対象外であります。

②企業結合を行った主な理由

当社グループは、平成28年5月10日に開示した設立70周年ビジョンの中で、エネルギーサプライ領域における施策として、縮小が予想される石油関連事業マーケットにおいて、収益基盤の安定性を強化すべく、これまで培ってきたノウハウをより高度なソリューションビジネスに発展させた付加価値サービス提供への取組みを強化しております。

一方、竹鶴石油は、神戸市を中心とした関西地区において、戦前から産業用エネルギーの的確な供給により基幹産業や地場産業への貢献を通じて発展を遂げ、現在も油槽所・タンクローリー・船舶を機動的に活用し、企業ニーズを捉えた活動を継続しております。

今後は両社の緊密な連携により、竹鶴石油の高い機動性や供給インフラに、当社グループの経営資源を組み合わせることで、より付加価値の高いサービスの提供へ発展させ、エネルギーサプライ領域における収益基盤の安定性を強化してまいります。

③企業結合日

平成29年4月5日

④企業結合の法的方式

現金を対価とする株式取得

⑤結合後企業の名称

名称に変更はありません。

⑥取得した議決権比率

50.2%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

(2) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	122,718千円
取得原価		122,718千円

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等	57,381千円
-----------	----------

(4) 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定していません。

(5) 企業結合日に受け入れる資産及び引き受ける負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定していません。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 子会社株式、関連会社株式及びその他の関係会社有価証券
移動平均法による原価法

② その他有価証券

イ. 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

ロ. 時価のないもの

移動平均法による原価法

③ たな卸資産の評価基準及び評価方法

イ. メーター商品

総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

ロ. その他の商品

先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

（リース資産を除く）

定額法、ただし平成19年4月1日以前取得した建物については、旧定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	13～50年
構築物	10～15年
機械及び装置	3～17年
車輛運搬具	4～6年
工具器具備品	3～10年

② 無形固定資産

（リース資産を除く）

のれんは、発生日以降、投資効果の発現する期間を個別で見積り、償却期間（5年又は7年）を決定した上で均等償却しております。また、自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

③ 長期前払費用

定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対し翌事業年度に支給する賞与に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

③ 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えて、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

- ④ 固定資産撤去費用引当金 将来の固定資産の撤去に伴う費用の発生に備えるため、当事業年度に負担すべき発生費用見込額を計上しております。
- ⑤ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度において発生していると認められる額を計上しております。
退職給付の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。
未認識数理計算上の差異の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。
なお、当事業年度末では年金資産の額が企業年金制度に係る退職給付債務の額から未認識数理計算上の差異を控除した金額を超過している状態のため、当該超過額を前払年金費用として計上しております。
- ⑥ 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく制度廃止時（平成17年6月末）の支給予定額を計上しております。
- ⑦ 商品保証引当金 販売した商品の保証に備えるため、過去の実績に基づき、将来の発生見込額を計上しております。
- (4) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項
- ① 繰延資産の処理方法
社債発行費 支払時に全額費用処理しております。
- ② 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

2. 会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社は、従来、有形固定資産（リース資産を除く）の減価償却方法について、定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用していましたが、当事業年度より定額法に変更しております。

この変更は、新POSシステムの一斉導入を契機として、当社の保有する有形固定資産の使用実態を検証した結果、当社の主要な資産については、今後も安定的使用が見込まれることから、減価償却方法として定額法を採用することが、当社の経済的実態をより適切に反映する合理的な方法であると判断したためであります。

これにより、当事業年度の営業損失が97,549千円減少し、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ97,549千円増加しております。

3. 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当事業年度より適用しております。

4. 貸借対照表に関する注記

(1) 担保に供している資産

① 担保提供資産

売掛金	1,059,277千円
建物	53,179千円
土地	354,062千円
投資有価証券	1,372,741千円
関係会社株式	766,910千円
計	3,606,172千円

② 上記に対応する債務

買掛金	1,514,669千円
短期借入金	420,000千円
1年内返済予定の長期借入金	676,664千円
長期借入金	1,216,674千円
計	3,828,007千円

(2) 有形固定資産の減価償却累計額 5,215,609千円

(3) 保証債務

関係会社に対する保証

① 借入金に対する保証

日新レジン株式会社 25,000千円

② 営業取引に対する保証

NISTRAD (M) SDN. BHD. 22,713千円

取引先に対する保証

営業取引に対する保証

MI TRADING&FORWARDING CO. LTD. 6,650千円

(4) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

① 短期金銭債権 86,572千円

② 短期金銭債務 5,127千円

5. 損益計算書に関する注記

関係会社との間の取引高

(1) 営業取引による取引高

売上高 261,206千円

仕入高 47,065千円

(2) 営業取引以外の取引高 28,619千円

6. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式

873,439株

7. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

① 繰延税金資産

賞与引当金損金不算入額	58,634千円
減価償却損金算入限度超過額	39,141千円
減損損失損金不算入額	256,578千円
投資有価証券評価損損金不算入額	72,863千円
ゴルフ会員権評価損損金不算入額	41,519千円
退職給付引当金損金不算入額	202,816千円
役員退職慰労引当金損金不算入額	11,146千円
貸倒引当金損金算入限度超過額	23,611千円
資産除去債務	25,040千円
固定資産撤去費用引当金	26,231千円
商品保証引当金	1,929千円
その他	33,797千円
繰延税金資産小計	793,309千円
評価性引当額	△267,197千円
繰延税金資産合計	526,112千円

② 繰延税金負債

固定資産圧縮積立金	157,717千円
資産除去費用	7,935千円
前払年金費用	53,441千円
資産調整勘定	10,052千円
その他有価証券評価差額金	678,006千円
繰延税金負債合計	907,152千円
繰延税金負債純額	381,040千円

繰延税金負債の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

流動資産	△115,348千円
固定負債	496,389千円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	30.86%
(調整)	
住民税均等割	51.07%
交際費等永久に損金に算入されない項目	21.33%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△10.63%
評価性引当額	△0.17%
その他	△3.21%
<hr/>	
差引	89.25%

8. 関連当事者との取引に関する注記

兄弟会社等

種類	会社名	住所	資本金 (千円)	事業の 内 容	議決権 等の被 所有割 合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科 目	期末残高 (千円)
その他の 関係会社 の子会社	J X エネ ルギー株 式会社 (注1)	東京 都千 代田 区	139,437,385	石油製 品の精 製及び 販売	—	転籍 1名	石油製 品の仕 入	営業取引 商品の 仕入	38,115,652	買掛金	1,514,669
								S S の 賃借料	449,496		
								カード支 払時の債 権回収代 行及び債 権譲渡	11,467,462	売掛金	1,059,277
	株式会社 J X トレ ーディ ング (注1)	東京 都中 央区	330,000	自動車 関連用 品の販 売、リ ース事 業他	—	—	設備の 購入	営業取引 設備の 購入	304,874	未払金	29,087

(注1) 両社の親会社である J Xホールディングス株式会社が当社の議決権を16.95%所有しております。

(注2) J Xホールディングス株式会社は、平成29年4月1日付で J X T Gホールディングス株式会社に商号を変更いたしました。

(注3) 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりませんが、債権債務の残高には消費税等を含めて記載しております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- ① 商品の仕入及び S S の賃借料は、関連を有しない他の一般特約店と同様の条件により決定しております。
- ② 買掛金については、売掛金、建物、土地及び投資有価証券並びに関係会社株式2,671,060千円を担保に供しております。
- ③ 債権回収代行及び債権譲渡は、関連を有しない他の一般特約店と同様の条件により決定しております。なお、取引金額は年間回収総額を記載しております。
- ④ 設備の購入は、関連を有しない他の取引先と同様の条件により決定しております。

9. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 2,573円67銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 1円22銭 |

10. 重要な後発事象に関する注記

(株式取得による竹鶴石油株式会社の子会社化)

当社は、平成29年1月26日開催の取締役会において、竹鶴石油株式会社の株式を取得して子会社化することを決議し、平成29年4月5日に同社の株式を取得いたしました。なお、この株式取得により竹鶴石油株式会社は当社の連結子会社となります。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称、事業の内容、規模

被取得企業の名称	竹鶴石油株式会社
事業の内容	産業用エネルギーを主とした陸上・海上での石油関連の販売・物流
規模 (29年3月期)	
純資産	460,251千円
総資産	707,786千円
売上高	918,655千円
経常利益	14,092千円

(注) 上記の経営成績及び財政状態は、会計監査人の監査対象外であります。

②企業結合を行った主な理由

当社グループは、平成28年5月10日に開示した設立70周年ビジョンの中で、エネルギーサプライ領域における施策として、縮小が予想される石油関連事業マーケットにおいて、収益基盤の安定性を強化すべく、これまで培ってきたノウハウをより高度なソリューションビジネスに発展させた付加価値サービス提供への取組みを強化しております。

一方、竹鶴石油は、神戸市を中心とした関西地区において、戦前から産業用エネルギーの的確な供給により基幹産業や地場産業への貢献を通じて発展を遂げ、現在も油槽所・タンクローリー・船舶を機動的に活用し、企業ニーズを捉えた活動を継続しております。

今後は両社の緊密な連携により、竹鶴石油の高い機動性や供給インフラに、当社グループの経営資源を組み合わせることで、より付加価値の高いサービスの提供へ発展させ、エネルギーサプライ領域における収益基盤の安定性を強化してまいります。

③企業結合日

平成29年4月5日

④企業結合の法的方式

現金を対価とする株式取得

⑤結合後企業の名称

名称に変更はありません。

⑥取得した議決権比率

50.2%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

(2) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金	122,718千円
取得原価		122,718千円

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等	57,381千円
-----------	----------

(4) 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定していません。

(5) 企業結合日に受け入れる資産及び引き受ける負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定していません。